

4. 隠元橋レンガ

フェイスブック掲載日 2021/7/23

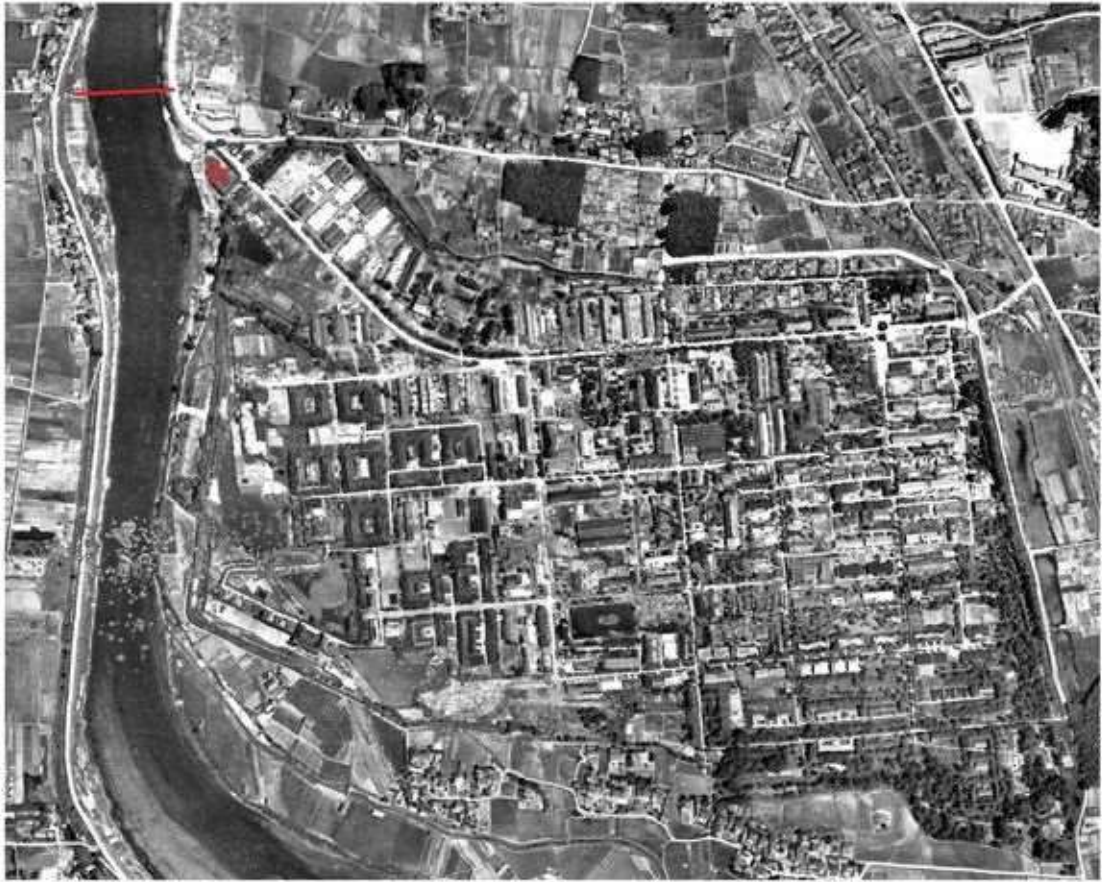
今朝、隠元橋まで散歩してきました。宇治の東と西を結ぶ隠元橋の謂われを読むと、昭和24年(1949)4月に初めて橋が架かるまでは、隠元の渡しと呼ばれ、人々は渡し船で行き交っていたそうです。このあたりは古くから水運による交通の要衝で、人々の往来や物資の流通がひんぱんであったと書かれています。

宇治市史第4巻によると、明治27年(1894)、政府は日清戦争を開始し、戦争遂行のため、この南東方向に宇治火薬製造所を作りました。国土地理院閲覧サービス(1945~50当時)の空中写真と、明治30年(1897)の宇治火薬製造所全図を見比べると、まだ隠元橋は架かってませんが、そのすぐそばの荷揚場から、火薬の揚げ降ろしをしていたことが想像できます。

散歩の途中、生い茂る雑草をかき分け、この付近の川原に降りてみました。隠元橋を望みながら撮った写真にはコンクリート製構造物が破壊された様子が写っています。宇治火薬製造所荷揚場の一部だったのでしょうか。そして、その付近の砂浜に埋もれていたレンガを掘り出すと、写真のような刻印が打たれていました。

少し興奮する気持ちを抑えながら、家に帰り、ネットで調べると、明治21年(1888)に設立された大阪窯業株式会社の古いタイプの刻印らしく、宇治火薬製造所跡に設置された陸上自衛隊宇治駐屯地関西補給処にも同じものが見つかるそうです。日常、散歩に使う生活エリアに、戦後76年間も眠り続ける戦跡が存在することに改めて驚いています。





福元橋

